たくしんNEWS

真南風(まはえ)号

2023年(令和5年)7月号 vol.282

拓伸会［拓南グループ］

拓南本社株式会社
拓南製鐵株式会社
拓南商事株式会社
拓南製作所株式会社
株式会社西原グリーンセンター
拓伸商事株式会社(大阪)
拓伸商事株式会社(福岡)
株式会社薩南物産
拓鐵事業協同組合

令和５年
県産品奨励月間標語
県産品　みんなで創る　島の価値

拓伸会会報(隔月発行)
拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会
〒900-0025沖縄県那覇市壷川３の２の４［拓南ビル３F］TEL.098-831-8228　FAX.098-832-0586

【真南風】南から吹いてくる風。オモロ原注に「南風の事」とある。『沖縄古語大辞典』(角川書店)より

100年企業へつないでいこう

拓伸会創業70周年記念式典

会長あいさつ　会場・国立劇場おきなわ

拓伸会は6月1日、創業70周年記念式典を国立劇場おきなわ(拓南製鐵浦添工場跡地)で開催した。台風２号の暴風域が接近する中、会員企業役職員ならびに被表彰者(OB・協力企業関係者等)５９７人が参加した(県外会員企業は台風接近のため不参加)。小湾正博副会長によると、拓伸会関係者のほぼ全員が一堂に会したのは初めて。ステージの傍らで創業者の肖像画が見守る中、永年勤続表彰、特別表彰、感謝状授与などが粛々と行われ、70年の歴史を共有した。

式典は、スライドショー「創業者・古波津清昇のあゆみ」で始まり、社歌斉唱の後、小湾副会長が開会宣言をした。

「拓伸会は、創業者が１９５３年に那覇市壺川で創業して以来、70年の月日が経った。その歴史の中で、社是『拓鐵興琉』のもと、多くの困難な時期を乗り越え、さらなる発展に向けて努力を重ねてきた。それができたのは、従業員の皆さん、協力会社の皆さん、お客さまのご支援とご協力があったからこそだ。

沖縄で、リーディングカンパニーとして認知され、信頼を勝ち得ることができ、本日、すばらしい節目を迎えられた。今後も、常に、時代の変化に対応し、新たな技術やサービスを開発して発展を続けていこう。１００年企業を目指してグループ各社がまい進することを祈念し、創業70周年記念式典を開会する」

「地球温暖化」も視野に

続いて、古波津昇会長があいさつに立った。

「会場には、50周年、65周年の記念イベントを覚えている人もいるだろうが、そのような対外的な式典ではなく、各社社員一同を集めて日々の活動に感謝し、歴史を共に振り返る式典は今回が初めてだと思う。

式典の開催に向けては、拓南製鐵の八木実代表取締役社長を中心に進めてもらった。同社が2番目に造った浦添工場の跡地にできた国立劇場おきなわを会場にし、皆さんと思いを共有して70周年をことほぐことは意義があると判断した。

古波津昇会長

拓伸会は70周年を迎えた。30年後の１００周年に向けて、企業として重要な時期にあたる。その30年の間に、次の１００年を考えていくことも重要で、若い世代はもちろん、各世代、それぞれの立場の者がしっかり先を見据え、つないでいくことが肝要だ。

拓伸会は社是『拓鐵興琉』を掲げ、沖縄のために貢献しているが、これからのわれわれの事業は、人々が生きていく上で重要な、地球の温暖化対策など環境問題についても担っている。それを共に認識し、自負し、自信を持って仕事を進めてもらいたい。

また、OB・OGの先輩方には、創業者が築いた拓伸会の成長をこれからも見守り、応援していただきたい」

浦添工場跡地の会場で全社員が集合

次の拓南マンを育てる

その後、表彰に移った。

まず、入社以来25年以上誠実に勤務した社員を対象に永年勤続表彰(計78人)が行われ、拓南本社４人、拓南製鐵34人、拓南商事６人、拓南製作所28人、西原グリーンセンター５人、拓伸商事(大阪)１人＝３頁左下参照＝に表彰状と記念品が授与された。

表彰された社員を代表して拓南製鐵の親富祖茂氏(勤続42年)があいさつに立った。

「創業者から入社の辞令をいただいた光景が、昨日のごとく脳裏に焼き付いている。私が立っている辺りは、浦添工場の圧延ラインだ。当時は、1日の生産目標達成のため、揺るぎないチーム力で団結し、生産活動に取り組んだものだ。懐かしい。

親富祖茂氏

激動の時代を、先輩方が汗と努力で乗り越え、今日に至っている。私たちが生活基盤をいま築けているのは、そんな会社のおかげだ。先輩、同僚、後輩、そして支えてくれた家族に感謝している。

今後は、拓伸会の発展に向け、若い世代の育成にも力を

《2頁へ》

《1頁より》注いでいく。後輩たちが成長し続けられる環境づくりをし、彼らが、100年企業を担える拓南マンとして誇りを持てるようにしたい」

続いて、台風2号の接近で式典が中止になった沖縄県工業連合会表彰の、拓伸会受賞者11人に表彰状が授与された＝4頁「トピックス」に関連記事。

サイドから皆さんと一緒に

黒島善茂氏

次に、各会員企業の技術承継、品質管理ならびに安全衛生などに尽力したOBを対象に特別表彰が行われた。

黒島善茂氏、石川逢重氏、後間儀雄氏、髙崎善裕氏、金城勝博氏、上原栄徳氏、宮平幸光氏、松竹哲彦氏、柴引宏文氏、儀間満男氏ら拓伸会OBが壇上に案内され、表彰状と記念品が授与された。

表彰された10人を代表して黒島善茂氏があいさつに立った。

「わたしたち10人は、入社の時期こそそれぞれ異なるが、創業者のご指導のもとで、持ち合わせた能力を目いっぱい発揮し、各々の立場でやり遂げたという自負がある。

本日、このすばらしい式典に出席させていただき、古波津会長をはじめ各社代表の皆さん、そして、次の時代に拓伸会を担っていくであろう皆さんを拝見して、そうそうたるメンバーだな、とワクワクし、たいへんうれしく思っている。

今回の表彰は、これからも頑張れ、必死に生きていけよ、という強い励ましのメッセージであろうと受け止め、深く感謝している。健康に留意し、拓伸会のOBとして誇りを持ちながら、拓伸会の発展にいささかでも貢献できるように、われわれもサイドから皆さんと一緒に100年企業へ向かっていきたい」

若い力を結集し新工場を

式典は、感謝状贈呈に移った。

各会員企業の運営に関わる協力企業、会社の財産や社員の安全安心ならびに衛生活動に対し功績のあった方々を対象に感謝状贈呈が行われた。

感謝状が贈られたのは次の20人。

〈拓伸会〉

山内眞樹氏（山内公認会計士事務所・公認会計士）、親泊恵子氏（親泊恵子司法書士事務所・司法書士）、鈴木孝史氏（編集室タッカーハウス代表取締役）、比嘉一清氏（比嘉一清法律事務所・弁護士）

〈拓南本社〉

井口郁氏（セコム琉球代表取締役社長）

〈拓南製鐵〉

宜本徹氏（鉄鋼処理産業代表取締役社長）、泉川スミ子氏（泉産業代表取締役）、伊佐信治氏（小湾運送代表取締役）、池田典夫氏（沖縄綜合警備保障代表取締役社長）

〈拓南商事〉

桑江浩氏（中城湾港運代表取締役社長）、川満明良氏（翔南建機工業代表取締役）、上門喜秀氏（大喜技建代表者）、奥平一氏（沖縄綜合管財代表取締役）、森永泰正氏（医療法人恵泰会もりなが内科・小児科クリニック・産業医）、具志堅梨恵子氏（健康相談員）

〈拓南製作所〉

親富祖政春氏（親富祖工業）、新垣金志氏（五和工業）、上間秀昭氏（秀興業代表社員）、潮平優氏（産業医）

〈西原グリーンセンター〉

島袋哲安氏（南日本警備保障代表取締役社長）

20人を代表し、山内眞樹氏があいさつに立った。

山内眞樹氏

「創業者は、最初の壺川工場で、沖縄史上初の鋼を生産した。2番目の浦添工場は、ライバル企業の施設を買収して移転したことから、沖縄唯一の製鉄工場となった。その後、3番目の工場として、最新の技術を誇る中城工場を造った。

創業者は、工場を造り替えながら、沖縄県の製造業界を活性化させてきた。たいへんな偉業である。

拓南製鐵幹部の皆さんと話をしていると、10年後の中城工場のイメージは湧く。しかし、その後だ。100年企業に向けて、次の新工場は、本日会場におられる若い力によって、ぜひ造っていただきたい。今後の拓南グループの発展を祈っている」＝右に「代表者あいさつ原文」掲載。

経験と実績が原動力になる

表彰、感謝状贈呈後、拓南製鐵の八木社長が場内に向けて「関係各位の皆さまへ感謝の意を込め、また、80年、90年、100年を目指す決意を心一にしてご唱和を」と呼び掛け、力強く社訓唱和を行った。

閉会を迎え、仲座清正副会長があいさつに立った。仲座

創業70周年を支えた方々

永年勤続表彰　拓南本社　（左から）川勝かおり氏、安里美樹子氏、喜屋武智氏（儀間由紀子氏は欠席）

永年勤続表彰　拓南商事　（後列左から）仲座光雄氏、安里敏氏、糸数巌氏、呉屋孝弘氏、神谷強氏（前列右端）上地一史氏

永年勤続表彰　西原グリーンセンター　（後列左から）我喜屋訓氏、與儀斉氏、喜屋武徳仁氏　（前列左から）山内雅代氏、大城優子氏

＊各キャプションは表彰状を手にしている方々のみ
＊拓伸商事（大阪）の黒田学氏は欠席

〈「感謝状贈呈」代表者あいさつ原文〉

3つの工場、2つの偉業（その意義）

山内公認会計士事務所　山内眞樹

私は、拓南製鐵の創業者古波津清昇氏の書かれた『鐵の道』をはじめ多くの著書を読ませていただいております。そして、拓南製鐵の3つの工場と2つの偉業に強い印象を受け、引きつけられました。

今から62年前、拓南製鐵の創業の地、第1の工場は『壷川工場』です。この工場で、沖縄の歴史上最初の鉄が生産されました。これは拓南製鐵の第1の偉業(沖縄に鉄筋造り住宅の提供)です。

鉄の生産と同時に『拓鐵興琉』という社是、企業理念が生まれ、拓南製鐵の歴史が始まりました。

それから17年後、第2の工場『浦添工場』に移転、ライバルの共栄製鋼を吸収し、沖縄で唯一の製鐵工場として、拓南製鐵の事業は大きく発展することになりました。この浦添工場の跡地には、70周年の記念式典を行っている『国立劇場おきなわ』が生まれております。

第3の工場は、1995年に沖縄市海邦町に建設された『中城工場』です。当時の最先端技術で装備した電気炉工場が完成しました。拓南製鐵の企業理念『拓鐵興琉』にふさわしく、地域を振興して事業を拡大する使命の下、新製品の開発と多様な鉄製品の生産を行っております。

当時、日本の産業力の中で、沖縄県は人口比1％にも満たない全国比0.7％ぐらいでした。その時、電炉生産で全国比1.1％を達成しました。これは平均身長160センチの環境において180センチとなるにも等しいことです。1％経済の水準を達成した、拓南製鐵の第2の偉業（30年余で鉄の全国並み産業化）です。

これから先を考えますと、拓南製鐵の八木実社長や松井太郎専務、知念正元専務、山内昌博常務といつも話をしていて10年後の『中城工場』のイメージはできます。しかし、20年後、いや100周年を迎える30年後の『第4の工場』は、今、会場に来られている新しい炎、若い世代のご活躍に心から期待いたしたいと思います。

拓伸会創業100周年には、3つの工場、2つの偉業に続く、第4の工場の稼動、3つ目の偉業の達成に心から期待しております。

＊各キャプションは表彰状を手にしている方々のみ

永年勤続表彰　拓南製鐵　（後列左から）大城雄一氏、又吉美幸氏、玉城浩氏、新垣真也氏、宮城有氏、玉城斉氏、安里明久氏、松本浩氏、久高唯克氏、前山田太氏、國吉智弘氏、大城俊彦氏、大城憲一氏、知念秀和氏、西平聡氏、金城喜栄氏、山川文誠氏、平野達剛氏、平敷武彦氏　（前列左から）野村直輝氏、喜屋武俊明氏、伊禮功氏、亀浜和輝氏、新里健氏、高江洲薫氏、親富祖茂氏、石原昌明氏、新垣盛啓氏、山本隆男氏、勝連暢也氏、大城裕之氏、神谷信一氏（桃原一也氏、新城まゆみ氏は欠席）

永年勤続表彰　拓南製作所　（後列左から）呉屋ナミ子氏、呉屋るり子氏、渡慶次美幸氏、安里まり子氏、宮城孝博氏、杉山学氏、屋良尚氏、源恭一氏、眞榮田義也氏、城間明氏　（前列左から）稲嶺盛政氏、島袋聡氏、比嘉仁氏、宮平等氏、渡嘉敷幸真氏、與儀馨氏、城間聡氏、川崎仁史氏、上間亨氏、屋良正年氏、渡嘉敷真也氏、花城秀明氏、山根隼人氏（仲村渠勉氏、呉屋厚吉氏、外間宏幸氏、崎原実氏、石川進治氏は欠席）

特別表彰　（後列左から）金城勝博氏、宮平幸光氏、柴引宏文氏、松竹哲彦氏　（前列左から）髙崎善裕氏、儀間満男氏、後間儀雄氏、黒島善茂氏、石川逢重氏、上原栄徳氏

感謝状贈呈　（後列左から）上門喜秀氏、新垣金志氏、親富祖政春氏、具志堅梨恵子氏、森永泰正氏、島袋哲安氏　（前列左から）奥平一氏、桑江浩氏、池田典夫氏、泉川スミ子氏（代理・泉川綾香氏）、井口郁氏（代理）、山内眞樹氏、親泊恵子氏、鈴木孝史氏、宜本徹氏、伊佐信治氏、上間秀昭氏（比嘉一清氏、川満明良氏、潮平優氏は欠席）＝会社名などは２頁参照

副会長は、被表彰者と全社員にあらためて感謝した上で、次のように述べた。

「70周年記念式典を浦添工場跡地に建つ会場で、全社員が一堂に会して開催できたことはまことに意義深く、忘れ得ぬ記念日となった。

拓伸会の70年を振り返ると、１９５３年に拓南商事が創立し、現在は会員企業が９社にまで増えた。１９６１年、壺川工場で電気炉の火がともり、沖縄で初めて鉄の生産を始めたが、今年2月、粗鋼生産で、ついに、大台の１００万トンを達成した。

拓南グループは現在、ＥＳＧ経営を展開しているが、世界のグローバル経済が不透明化しており、今後、経営環境で舵取りが厳しくなる局面も予想される。

しかし、私たちは『拓鐵興琉』の精神を育みながら、苦難の道を幾度も乗り越え、こうして発展し、70周年を迎えることができた。その経験と実績は大きな財産だ。１００年企業に向けて大きな原動力になると信じている」

司会は、拓南製鐵の盛島守礼品質管理室長兼環境室長（執行役員）が務めた。

＊式典は感染症対策を講じて実施。撮影時だけマスクを外してもらった。

【永年勤続表彰】

〈拓南本社〉
川勝かおり氏、儀間由紀子氏、安里美樹子氏、喜屋武智氏

〈拓南製鐵〉
親富祖茂氏、桃原一也氏、新垣盛啓氏、山本隆男氏、神谷信一氏、玉城浩氏、金城喜栄氏、西平聡氏、新城まゆみ氏、山川文誠氏、又吉美幸氏、石原昌明氏、知念秀和氏、大城憲一氏、勝連暢也氏、平敷武彦氏、大城俊彦氏、喜屋武俊明氏、大城裕之氏、新里健氏、平野達剛氏、安里明久氏、玉城斉氏、大城雄一氏、高江洲薫氏、前山田太氏、新垣真也氏、宮城有氏、國吉智弘氏、伊禮功氏、亀浜和輝氏、松本浩氏、久高唯克氏、野村直輝氏

〈拓南商事〉
安里敏氏、仲座光雄氏、神谷強氏、上地一史氏、糸数巖氏、呉屋孝弘氏

〈拓南製作所〉
與儀馨氏、仲村渠勉氏、宮平等氏、上間亨氏、呉屋厚吉氏、外間宏幸氏、安里まり子氏、屋良尚氏、源恭一氏、島袋聡氏、呉屋るり子氏、杉山学氏、稲嶺盛政氏、渡嘉敷真也氏、呉屋ナミ子氏、渡慶次美幸氏、屋良正年氏、花城秀明氏、川崎仁史氏、比嘉仁氏、崎原実氏、宮城孝博氏、石川進治氏、城間聡氏、城間明氏、山根隼人氏、眞榮田義也氏、渡嘉敷幸真氏

〈西原グリーンセンター〉
我喜屋訓氏、山内雅代氏、喜屋武徳仁氏、大城優子氏、與儀斉氏

〈拓伸商事（大阪）〉
黒田学氏

＊「トピックス」欄に載る名称、人物の肩書などは、記事を史料として活用するため、原則として当日のものとします。

TOPICS

6月

伊口氏（イメイド）に技術功労賞

古波津製造業育成基金

古波津製造業育成基金は6月2日、ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城で開かれた県工業連合会の定時総会で2023年度表彰式を行った。記者会見には地元紙の記者が出席した＝切り抜き参照。

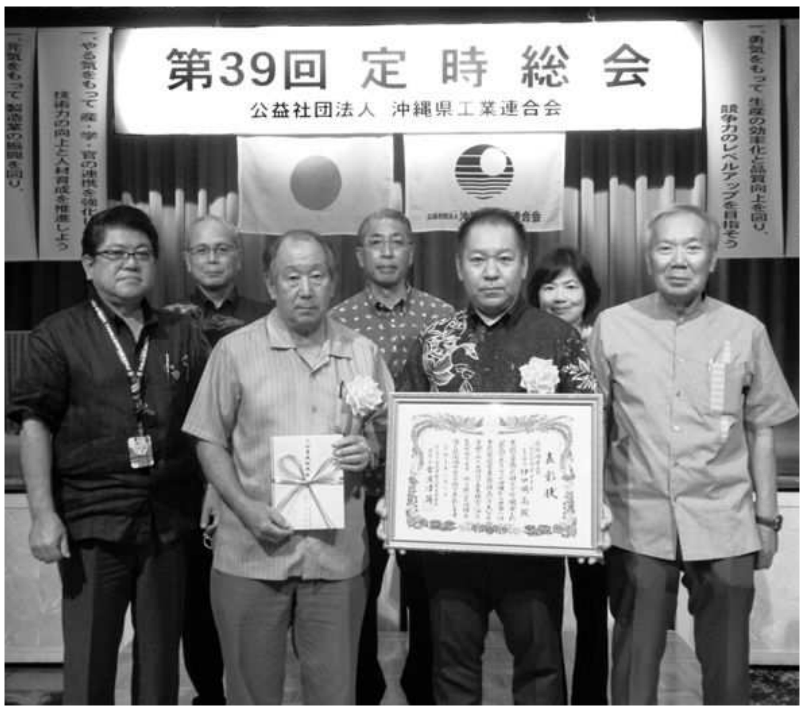
第31回受賞者は、技術功労賞が、県産モーターや電動カート製造に取り組むイメイド（うるま市）の伊口明高氏。製造業起業賞は該当者がなかった。

古波津基金事務局は「同社は、100％県産モーター、電動カート用アルミフレーム製作、再エネ用蓄電装置、ルート走行制御自動搬送車を県内市場で展開しており、また、電池パック再資源化の構築も視野に入れて活動している。環境面での観点から、今後の技術開発に大いに期待する」と授賞理由を説明した。

古波津昇理事長から賞状と報奨金50万円を授与された伊口氏は「歴代受賞者には、沖縄の製造業界で結果を出してきた方々が多数いらっしゃるので、本当に私で良かったのか、というのが率直な気持ちだ。しかし、この受賞を、弊社の事業に対する期待の表れだと受け止めたい。今後、沖縄の製造業を発展させるために物をつくることにこだわり、モビリティの産業を沖縄でどんどん形にし、県外や海外へ展開していきたい」と感想を述べた。

人材育成助成金（10万円）は、なは市少年少女発明クラブに交付された。表彰式で座間味勲会長に贈られた。

産業育成助成金は該当者がなかった。



表彰状を手にした伊口氏と座間味氏（左隣）を囲み理事らが祝福

イメイドに技術功労賞

古波津育成基金 県産モビリティ製造

沖縄タイムス
（6月3日付）

5月

西平氏、山川氏、花城氏を表彰

日本クレーン協会沖縄県支部

（一社）日本クレーン協会沖縄県支部の定時総会が5月19日、中城村屋宜の同支部事務所・教室棟で開かれた。席上、令和5年度優良クレーン等運転士等支部長表彰が行われた。

拓伸関係者から、優良クレーン等運転業務従事者として拓南製鐵の西平聡氏、優良玉掛け業務従事者として同社の山川文誠氏と拓南製作所の花城秀明氏がそれぞれ表彰された。

3人を代表して花城氏は「資格取得して以来31年間、無事故でやってきました。この表彰を機に後輩の指導もしっかり行い、気を引き締めて無事故・無災害で頑張っていきます」とコメントした。

表彰状を手に（左から）山川文誠氏、花城秀明氏、西平聡氏

6月

拓伸会関係者11人受賞

沖縄県工業連合会表彰

沖縄県工業連合会の2023年度表彰式が台風2号接近のため中止になり、拓伸会関係受賞者の表彰状授与が6月1日、拓伸会創業70周年記念式典（会場・国立劇場おきなわ）＝1～3頁参照＝で急きょ行われた。

受賞者は、優良従業員賞（全44社71人）7人、優秀技能者賞（全10人）2人、創意工夫功労者賞2人で、創意工夫功労者賞は拓伸会関係者で占めた。

授与式では、県工業連合会の古波津昇会長が11人に表彰状を手渡した。

各受賞者とコメントは下記の通り。

表彰状を手にした受賞者の皆さん　（後列左から）比嘉正毅氏、千葉盛昭氏　（前列左から）小浜守人氏、新垣俊二氏、平良利江氏、安慶名光史氏、渡嘉敷幸真氏、平良幸太氏、長嶺宜由氏、稲福孝哉氏、下門健一氏

〈優良従業員賞〉

○拓南本社
安慶名光史氏

「このような栄誉ある賞を受賞できましたのは、各先輩方や皆さまからのご支援とお力添えの賜物だと心より感謝申し上げます。これからも初心を忘れることなく、グループに貢献できるよう精進して参りますので、今後ともよろしくお願い致します」

○拓南製鐵
平良幸太氏

「このたびは素晴らしい賞をもらえて光栄です。これからも安全第一で職務にあたります」

稲福孝哉氏

「上司や同僚に恵まれ、このような素晴らしい賞をいただきました。これからも会社に貢献できるように頑張ります」

○拓南商事
千葉盛昭氏

「賞をいただいてうれしく思います。初心を忘れずに頑張りたいと思います。ありがとうございました」

平良利江氏

「このたびは、賞を頂戴し、誠に光栄に思います。上司やメンバーの支えやフォローのおかげです。今後も仕事に尽力してまいりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます」

○拓南製作所
渡嘉敷幸真氏

「素晴らしい賞をいただき光栄です。これからも精進し、会社とともに成長していきたいと思います」

下門健一氏

「このような賞をいただいて大変光栄です。これからは、後輩の見本となれるよう、より一層精進し、後輩の指導にも力を入れていきたい」

〈優秀技能者賞〉

○拓南製鐵
長嶺宜由氏

「このような素晴らしい賞をいただけたのも支えてくれた家族や上司、先輩、後輩、周りの方々のおかげです。これからもご指導よろしくお願いします」

○拓南商事
新垣俊二氏

「いただいた賞に恥じぬようにこれからも意識を高め、安全第一で頑張っていきます」

〈創意工夫功労者賞〉

○拓南製鐵
比嘉正毅氏

「このたびは素晴らしい賞をいただき、誠に光栄に思います。この賞は、現場の皆さんが作業環境が悪い中、お互いに協力し意見を出し合って、作業者全員が同じ目標に向かって取り組めたことでいただけたと思っています。今後も、現場作業者と一致団結し、さらなる工夫を凝らして取り組んでいきたいと思います」

○拓南商事
小浜守人氏

「70周年という節目の年に表彰されることを、大変うれしく思います。これからも、最高の仲間と最強のメンバーで、頑張っていきたいと思います」

竪型シュレッダープラント棟上げ式

4月

拓南商事

拓南商事は4月28日、竪型シュレッダープラント棟上げ式を構内で行った。

普天満宮・新垣神職のもと、鋏鋲の儀、玉串奉奠、槌打ちの儀、四方祓の儀などが行われた。参加者は、施主、設計業者、施工業者などの関係者26人。

槌打ちの儀

玉串奉奠は、拓南商事の古波津昇代表取締役会長、川上哲史代表取締役社長、平田要取締役副社長、川上設計の川上淳吉代表者、拓南製作所の本部紹吉代表取締役社長、福地組の福地一仁代表取締役社長、拓南製作所の與儀馨現場代理人が臨んだ。

川上社長による「鋏鋲の儀」

棟上げ式後、川上社長は「建設工事では天候不良などが続き、当初の予定より工期が遅れたが、拓南製作所を含めた関係者の協力もあり、建屋の棟上げ式を無事に実施することができた。竪型シュレッダープラントでは、鉄や非鉄金属の他にプラスチックの回収にも視野を置き、新たな分別につなげる。今後、家電のみならず発生する処理困難物(金属と樹脂の複合材の製品)のリサイクルについても尽力する」とコメントした。

今後、リサイクル設備の据え付け工事および運用工事を行い、9月上旬に完成予定。企画開発室の名波和幸室長は「設備導入においては、拓南商事のもつネットワークを駆使し、同業他社より情報(安全対策、環境対策)等を社内プロジェクトチーム、メーカーと念入り検討し、より良い設備になるようにチューンアップを施した。導入設備を十二分に発揮して、さらなる事業の発展に寄与できるように頑張る」と述べた。

四方祓の儀

拓伸商事(福岡)新社長就任あいさつ

大城秀政

ご安全に。この度、拓伸商事株式会社(福岡)の社長の大任を拝命しました大城秀政です。

さて、昨年まで、コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻による経済の停滞や各種資源・エネルギーの高騰で世界経済の先行き不透明感から施主が建築への投資に慎重になったほか、資材高による建築コストの上昇で工事を延期する動きもありました。しかし、コロナ感染症も5類に移行し、民間工事も動き出すことを期待します。

まだまだ先行きが不透明な中ですが、私たちはTコンをはじめネジテツコン、ATエポキシバー、シルバー鉄筋など付加価値商品と拓伸会グループの新商品も含め、特性を生かした販売方を構築し、取りこぼし案件も含め一つずつ積み重ね、拡販に注力します。

また、拓南製鐵・拓南製作所・薩南物産とともにさらなる情報共有により迅速で正確な対応力をもって全体最適に努め、相乗効果を発揮していきたいと思います。

ESG経営を基に、内部においてはBCP対策として販売管理システムの再構築、ならびに、それが本社からも「見える化」し、いつでも対応、応援できる体制づくりを本社の協力のもと安定確立していきます。さらには、健康宣言した内容の認知と実行力を高め、健康で明るい職場環境づくりに努めます。

これからも拓伸会や取引先の皆様には引き続きご協力・ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

＊5月11日就任。拓伸商事(大阪)代表取締役社長と兼務。写真は、4月8日の経営計画発表会。

オートドリルマシン更新

5月

拓南製作所 建設鐵構事業所

拓南製作所建設鐵構事業所は5月6日、オートドリルマシンを更新した。

このDAITO製オートドリルマシン(DNFⅡ−1050α)は、鉄骨加工するにあたりH型鋼を穴あけ加工する機械。従来のものより加工速度が40%速くなるほか、NC穴あけシステム(REAL4連動)の導入により、今まで手で入力していた作業を省くことができる。

建設鐵構事業所は、4月10日に入荷したオートドリルマシンを15日までに設置し、5月6日に稼働させた。

今回の更新により、コスト削減および入力ミス加工ミスが減少し、加工重量の増加が見込まれ、1次加工、穴あけでの工程の遅れがなくなり、大型案件にも対応できる態勢が整った

オートドリルマシンDNFⅡ-1050α

フルハーネス特別教育を実施

4月

拓伸会

拓伸会は4月26日、第8回フルハーネス特別教育を拓南製鐵で実施した。そこで、拓南本社の又吉史也氏に感想を寄稿してもらった。特別教育運営担当の又吉氏は、器具着用の徹底、正しい知識と適切な準備、情報共有を強く呼び掛けている。

増加している墜落・転落災害

拓南本社(特別教育運営担当) 又吉史也

4月26日に拓南製鐵で開催された第8回拓伸会フルハーネス特別教育に参加した。

今回を含め計5回この講義を運営しているが、あらためて感じたことは墜落・転落災害の死亡者数が多いことだ。

令和4年度の全国死亡災害の統計を見ると、死亡災害の約3割が墜落・転落災害となっており、令和3年度に比べ約15人増加している。

現在、沖縄県では墜落・転落災害防止対策を重点事項として改善の取り組みを進めている。拓伸会においても、多くの社員が高所作業に携わる中、これまで以上に注意を払って作業を行わなければならないと考える。

この講義を受講された方は、「自分の命・皆の命を守るため」必ず器具の着用を徹底してほしい。そして「使用方法・構造・管理」についても適切な知識を身につけ、社員同士の情報共有を忘れてはならない。これらのことをぜひとも遵守してほしい。

工場見学会に331人参加

5月

拓南製鐵　拓南商事

拓南製鐵・拓南商事は5月2日、工場見学会を実施した。来場者数は331人（取引先301人、一般30人）。学校行事シーズンのため学生が例年より少なかったが、複数の職種で、まとまったグループの見学が目立った。街クリーンなどリサイクル業者も参加した。また、うるま市長の中村正人氏、外務省特命全権大使（沖縄担当）の宮川学氏もそれぞれ見学した。労働安全衛生、働き方改革、雇用関連の専門家らのグループも訪れ、中部事業所2階会議室で、長濱直次安全統括室長から事前レクチャーを受けて見学に臨んだ。

＊工場見学会のディレクターを務めた拓南本社の神谷愛里氏、見学会に参加したうるま市長の中村正人氏、労働安全衛生等の専門家、初めて見学した拓南本社の神山エリ氏の感想は下記の通り。

工場見学会のヒトコマ（神山エリ氏撮影）

より幅広い層へアピール

拓南本社　神谷愛里

従来の見学会は取引先のみに案内しておりましたが、今回は一般のお客様や従業員の家族・友人等へも案内可能としたことで、より幅広い層へ拓南グループの活動を知っていただくことができたと思います。

また、コロナ禍前のようにパワーテントを使用し、展示ブースを設営したので、開放感のあるスペースでお客様とお話しすることができました。

コロナ禍前に実施していたアンケートも復活させ、見学会の効果やお客様の声を拾えるようにし、裏面にはイラストで「拓伸会70周年」をアピールしました。

（ディレクターとして）力不足な部分も多々あったと思いますが、先輩方が支えてくださったおかげで無事に終えることができ、安堵しました。次回以降はよりスムーズに運営し、お客様もスタッフももっと楽しめる見学会にしていければなと思います。

地域に欠かせない現場

うるま市　中村正人市長

近年、SDGsという言葉が聞かれるように、限りある資源の再利用が課題となっております。

廃材・家電・自動車のリサイクル、インフラ整備には欠かすことのできない製鐵の現場を視察し、拓南商事・拓南製鐵がうるま市および県内にとって欠かせない現場であるということを再認識しました。

皆様の一つ一つの丁寧な作業から、新しい資材や燃料、商品が生まれることを、大変ありがたく思います。

皆様とうるま市・沖縄市で一丸となり、県内を活性化していきましょう。今後とも、皆様のお力添えを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

安全衛生の専門家も見学

沖縄労働局等から27人

労働安全衛生、働き方改革、雇用関連の専門家27人（沖縄労働局、那覇・沖縄・名護沖縄労働基準監督署、沖縄公共職業安定所）が見学会に参加した。

2階会議室で事前レクチャーを行い、あいさつに立った八木実代表取締役社長が「ご専門の皆様にこれから見学していただき、お気づきになったことやアドバイスをぜひうかがいたい」とリクエストした。

一行は、拓南本社安全統括室の長濱直次室長（執行役員）によるレクチャー（拓伸会の歩みと各社のプロフィル、採用実績、働き方改革、地域貢献活動、安全衛生活動等）を受けた後、工場見学に臨んだ。寄せてもらった感想（一部）は下記の通り。

○鉄筋の工場見学は初めてだったので、勉強になりました。

○丁寧な説明で、非常に理解しやすかったです。

中部事業所２階会議室で事前レクチャー

○製鐵作業を一連の流れで見ることができ、とても勉強になりました。

○バスの移動が快適でした。

○安全面が徹底され、暑い中、色々工夫されていた。見学していて大変良かったです。

○車を解体するところなど、すごく迫力がありました。

「私も頑張ろう」

見学体験記

拓南本社　神山エリ

本社で働いていると工場を訪れる機会が少ないため、今回、工場見学に参加させていただいたことで、自社製品がどのように作られているか知るきっかけになりました。

展示ブースの中では、特に廃自動車から回収したシートベルトで作ったバッグやサイドガラスから作られたコップが見学者の目を引いており、「シートベルトで作られたバッグが生地もしっかりしていて可愛かった！どこに売っているんだろう」「リクルートバッグがあれば購入したい」などの声が聞かれ、とても好評でした。

拓南商事の見学では、同期の與那嶺吏矩さんが見学者を前に説明していました。その姿を見て感激したと同時に、私も頑張ろうという気持ちになりました。

廃車を重機で解体しているところでは、あまりの迫力に歓声があがっており、見学者同士で「面白いね、来てよかった」というような声も聞

工場見学中の様子（神山エリ氏撮影）

こえてきました。

拓南製鐵の見学では、電気炉から取り出した鉄が1600度にもなるため工場内は高熱で、毎日暑い中、危険が伴う作業をしていることが間近で見てよくわかりました。

今回の工場見学で、拓南グループが沖縄の経済や住環境に深く関わっていることを知ることができ、誇りに思う気持ちと同時に、見学者の皆さんに対して、日常生活の中で拓南グループの鉄筋に気づいてもらえたらうれしいと感じました。

以前、社会科見学で訪れていた方や、2回目の参加の方もいて、「なかなか見られない工程が間近で見学できて楽しかった」「1回見てるからこそ2回目でよく理解できた」といううれしい感想も聞けました。

今回の貴重な経験が自社を知るきっかけになったので、これからも自ら学んで成長していきたいです。

拓南余話⑩

ヒラヤーチーの隠し味

黒島　善茂

話は少しわき道に逸れるが、家庭訪問をした中でK君の家を訪ねたときのこと＝連載⑨参照＝を今でも鮮明に覚えているので、もう少し書くことにする。

ご両親に一通りの説明を終え、ご理解を得たところでそろそろおいとましようとした時だった。

先ほどから台所で何やら料理をしていた祖母が顔を出すなり、「アンシ トゥーサル ナーファカラチョール ニーサンターカイヌーンイジャサングト ケースンナー」（遠い那覇から来ている兄さんたちに何も出さないで帰すのか）と、少し待つように言われた。

程なく、祖母は、ニービラ（ノビル）の入ったヒラヤーチー（メリケン粉に水を加えて焼く沖縄風お好み焼？）を盛った器を出しながら、「ウリ カメーカメーウサガレー」（さぁ食べなさい）と勧めてくれた。そのヒラヤーチーの美味しかったこと。あの味は今でも忘れられない。

田舎には「カメーカメーオバー」がいるとは聞いていたが、なるほどこういうことなのだな、と納得した。

オバーは続けて「カムシエーンナ ヤーグヮーカラサゲイゴーイシドゥウマガヌチャーフドワチャン」（食糧は全部、共同売店から掛け買いして孫たちを育てた）、さらに「ウージトーシーヤ アチャーンデールフィーヤ ネーラン、チューシービチーグトゥーヤチューウティサンネー ジャーフェーナイン」（サトウキビ刈りは明日という日はない、今日すべきことは今日しなければ始末におえなくなる）と言うや、ウチナー口を使わない私たちに「エー ニイサンターヤ ヤマトンチュドゥヤンナー」（兄さんたちは本土の人か）と聞いてきた。

美味しいヒラヤーチーを戴き談笑している玉寄さん(左)と小生

どうも祖母は、私たちがヤマト口しか使わないので何となく冷淡に感じ、孫の退職を宣告に来たのではないかと勘違いしているようだった。

何とも具合の悪いことに玉寄君が宮古、私が八重山出身で、ウチナー口を聞くことはできるが話すことができない。そのことを前もって釈明しておくべきであった。

まだ食べ物が乏しい時代にヒラヤーチーを焼いて出してくれた人の良いオバーに、要らぬ心配をかけてしまったものだ、と反省した次第である。

（拓伸会　前名誉会長）

初のラジオ体操講習会

拓南製作所　5月

拓南製作所は5月25日、初のラジオ体操講習会をフォーミング事業所リン酸亜鉛処理工場前で実施した。役職員（協力会社含む）をはじめ拓南本社3人、拓南製鐵1人の約150人が参加した。

うちなー健康経営宣言の取り組み事項のひとつに「効果的なラジオ体操の実施」があり、毎朝のラジオ体操で「伸ばすところを伸ばしていない」「曲げるところを曲げていない」「元気がない」などの反省点があることから、効果的に行えるようにしようと実施した。

全国ラジオ体操連盟普及推進委員の佐喜眞靖氏（かんぽ生命ラジオ体操推進役）に、ラジオ体操指導士の派遣依頼をし、講師の我如古則子氏（ラジオ体操1級指導士）が来社した。

我如古氏は、ラジオ体操第一の基本的な13の動きをポイントごとに指導し、「ラジオ体操は、1、2、3、4（号令）…と声を出しながら行うとさらに効果がある」などのアドバイスをした。

参加者は、汗を流しながら真剣に取り組み、さわやかな朝のひとときを過ごした。そのなかで、建設鐵構事業所建設部工務課の玉城里吉氏は、次のように感想を述べた。

「効果的なラジオ体操が目的ということで、講師を迎えての講習会に参加した。今後も、継続的に取り組もうと思った。健康を維持していきたい」

「当時、最大の課題だったのは…」

川上社長（商事）の連載　沖縄建設新聞　5月

前号で既報した通り、拓南商事の川上哲史代表取締役社長は『沖縄建設新聞』の「建設論壇」で連載（全6回）を開始した。5月17日付の第2回は、拓伸会の電気炉製鋼導入に至る「拓伸会の歴史」を記している。

建設論壇

拓南商事㈱ 代表取締役社長 川上 哲史

拓伸会の「製鉄業」の歴史～鉄スクラップを良質な鉄筋に～

今回は拓南グループ拓伸会の起業に深く関わった「鉄」についてお話しします。

私たちが生きる現代社会は、身近なところで多くの鉄が使われています。例えば、建設関係では建物の鉄筋・鉄骨、工事に使用する仮設足場・重機車輌などが挙げられます。また、私たちの生活必需品である自動車等の乗り物や家電製品、飲料用や食品用の缶、多くの物資を輸送する船舶など、至る所に使用されています。

日本の近代化の過程で鉄は基幹産業になり、国営の製鉄所が作られ、「鉄は国家なり」と言われた時代もあるほど重要産業になりました。

その鉄は、飲料用缶のように1㎜以下の薄く柔らかい鉄から、橋のように人々の生活と安全を確保する強靭な鉄、あるいは自動車の車体のようにデザイン性の高い曲線形状など、さまざまな用途に合わせて加工できます。これは鉄がほかの金属より地球上に豊富に存在し、大量に生産できることや、他の金属元素を加えて結晶組織を調整することで、強さや硬さや性質を自由に調節できるという加工のしやすさに利点があります。また、鉄は粘り強い性質があるため、常温でも加工できますが、加熱すると、より簡単に加圧し成形できます。

鉄を加工しやすい状態にするためには「製鋼」という技法を使いますが、大きく分けて「高炉・転炉製鋼法」と「電気炉製鋼法」があります。

高炉・転炉製鋼法は、自然界に存在する鉄鉱石を主原料とし、石炭を熱処理したコークスを使用します。高炉（溶鉱炉）鉄鉱石とコークスを交互に投入し、熱風を吹き込み、コークス燃焼と還元作用により鉄分が取り出されます。取り出された鉄分は転炉に移され、酸素を吹き込むことで不必要な成分を除去し、用途に応じた鋼材に加工していきます。日本では世界中の安い鉄鉱石や石炭を使う高炉・転炉製鋼法の発展が鉄鋼業の原動力となりました。

しかし、自然界の鉄鉱石は人類の経済成長と人口増加により、大量に消費され、エネルギー消費の増大と天然資源採取に伴う自然破壊、廃棄物の大量発生など、環境に対する悪影響を生じることとなりました。

一方、電気炉製鋼法は、電気炉（電気による溶解炉）に地域で発生した鉄スクラップを原料とし、アーク溶接のように電極と鉄スクラップ間でアークを飛ばし、アークの高熱により鉄スクラップを溶解します。酸化精錬と還元精錬の工程の後に鋳型にて成形し、用途に応じた鋼材に加工します。

拓南製鐵㈱が電気炉製鋼を取り入れ製鉄業を開始したのは、今から62年前の1961年で、県内初の5t電気炉を導入しました。当時、最大の課題だったのは鉄を1600℃以上に溶解する電力の確保でした。また、溶解した鉄に耐えられるレンガや耐火物、製鉄・製造する設備も整っておらず、鉄の成分調整など加工する技術、人材も県内に十分になく、多くのハードルを抱えていました。あるものといえば加工困難な鉄スクラップだけで、何とか資源として有効活用できないかと創業者である古波津清昇氏は、一縷の望みをかけて電気炉を導入し、試行錯誤を繰り返しながら鉄スクラップを再利用した鉄筋の生産を開始しました。

このように氏は、県内におけるサーキュラーエコノミーの基盤を築き、「拓鐵興琉」の精神のもと、私たちを指導し、技術屋としての心得を説きました。どのように諸課題を克服していったのかは次回お話ししますが、現在も立ちはだかる課題解決に向け、日夜、改善・改良に取り組んでいるところです。

改めて古波津氏の熱意と決断、壮大なスケールの挑戦に敬服するとともに、今日の拓伸会を導いていただいたことに深く感謝し、今後も次世代への継承に努めます。

「沖縄建設新聞」5月17日付

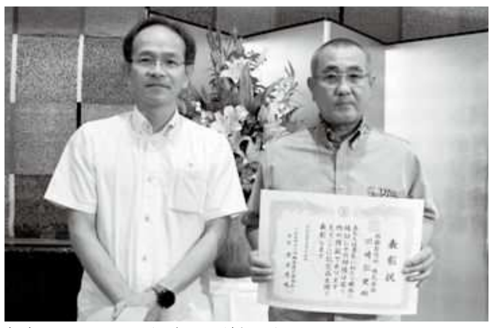
川崎氏（製作所）を優良従業員表彰

沖縄県建設業協会　5月

（一社）沖縄県建設業協会は5月19日、沖縄ハーバービューホテル「彩海の間」で令和5年度表彰式を開いた。壇上で「全国建設業協会表彰」「建設業福祉共済団表彰」「沖縄県建設業協会表彰」が行われた。

県建協表彰のなかで、優良従業員として、拓南製作所の川崎仁史氏に表彰状が授与された。優良従業員表彰は「多年にわたり職務に精励し、成績が特に優良な社員」で、今回は、会員企業の31人が対象となった。

川崎氏は「本部社長、奥平副社長をはじめ上司、同僚、後輩の皆さんに恵まれ、助けられてここまで来た。これからもよろしくご指導願いたい」と感想を述べた。


祝福に駆けつけた奥平副社長と

4月

拓伸会が新入社員研修

29人に安全衛生教育

拓伸会は、新入社員を対象にした安全衛生教育を4月27日、拓南製鐵本社中部事業所で実施した。そこで、拓南本社安全統括室の長澤孝之氏にレポートしてもらった。

初のメンタルヘルス研修も

拓南本社安全統括室　長澤孝之

トックリキワタの綿毛が舞うころ、今年度は大卒14人、高卒15人の総勢29人が拓南グループ各社へ仲間入りし、本格的な業務開始前の安全衛生教育が拓南製鐵で開催された。

昨年までは感染症対策で大人数での研修や集まりが制限され、社員同士の交流も希薄になっていたが、ようやく、全員が一堂に会しての新人教育が開催可能になった。

今回は、安全衛生教育に加えて、産業保健支援センターより大嶺ひとみ氏を講師に迎え、若年者向けのメンタルヘルス研修を初めて併催した。

安全衛生教育では、拓南本社の長濱直次執行役員安全統括室長が、グループワークを通して「安全」「労働災害」等についてディスカッションを行い、安全や労働災害への理解を深めた。

一方、大嶺氏の講演では、ストレスへの向き合い方をはじめ、グループワークを通じて社員それぞれが日頃感じているストレスやストレス発散の方法を共有することで交流も生まれ、大変にぎやかな研修になった。

これから、業務の中でさまざまな経験をして大いに成長し、若い力で未来の拓南グループを支えてくれることを期待したい。ご安全に。

新産業医・伊礼氏が就任

拓南製鐵
拓南商事

拓南製鐵と拓南商事の新たな産業医・伊礼壬紀夫（いれいみきお）氏が4月1日に就任した。

伊礼氏は、オフィスRay代表者、日本医師会認定産業医で、労働衛生コンサルタント。

新任にあたり「従業員の皆様が元気に仕事ができるよう、お手伝いをさせていただくことになりました産業医の伊礼です。4月から拓南製鐵と拓南商事に月1回ずつ訪問しています。よろしくお願いします」と小紙にコメントを寄せた。

美化活動をスタートしました

拓南製作所　知念直成

当社では、4月1日から業務部による美化活動をスタートしました。

今回は、第1弾として、苗を植えましたので報告いたします。

これからも「花いっぱいの製作所にしていきたい」とみんな意気込んでいます。

立ち寄った際はぜひご覧になってください。（統括本部業務部業務課課長代理）

あじまあ掲示板

2023年5月1日～6月30日

＊一部、未紹介分も掲載しています。

•人•事•往•来•

☆役員・顧問・執行役員人事

〈拓南本社〉

専務取締役　仲松庸一郎　5月17日
「5月17日の定時株主総会ならびに取締役会にて、本社取締役に就任いたしました。微力ではございますが、精いっぱい努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます」・・・

顧問　山田親和　5月1日
「過分なご配慮で、心して職務に取り組みます」・・・

執行役員業務担当　安仁屋歩　6月1日
「このたび、拓南本社勤務を仰せつかりました。今まで経験した仕事と異なる業務も多くあると思いますが、早く環境に慣れ、戦力となるよう努力してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます」・・・

〈拓南製鐵〉

取締役副社長　知念正元　6月9日
「副社長就任にあたり、よりよい職場づくりに尽力したいと考えております。安全目標が達成できないのが現実です。いかにゼロ災1000日を達成するか、全社員および管理者と追究したいと考えております。工場運営については、設備更新、作業環境、生産性向上、技術継承の課題が数多くあり、各問題を把握し、解決に取り組みます。皆さまのご協力をお願いし、就任のあいさつといたします」・・・

専務取締役　山内昌博　6月9日
「安全第一でゼロ災1000日達成を社員全員、一丸となって進んでいきます。また、製造コストをいかに抑えていくかが100年企業への大きな鍵となります。拓伸会の皆さまには、これまで以上のご指導、ご鞭撻、ご協力をよろしくお願いいたします。専務の重職を担い、全身全霊頑張ってまいります」・・・

常務取締役　西銘進　6月9日
「このたび、このような大役を仰せつかり、大変緊張しております。これまでとこれからの課題への最適化、効率化、安全と働く社員の健康向上、一人一人が輝ける環境を構築できる仕組みを作り、チャレンジ心を持って取り組んでいきたいと思いますので、誠に微力ではございますが、先輩方ならびに社員の皆さま方のご協力を仰ぎながら、業務にまい進していきたいと思っております」

常務取締役　蔵當正寛　6月9日
「このたびの人事で、このような大役を任せていただくことになり、責任の重大さに身の引き締まる思いです。昨今の激しい時代の変化に対応すべく、これまで関わることのなかった分野へも挑戦する所存です。拓伸会の皆さまと連携を取り、微力ながら会社の発展のために尽力したいと思いますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします」・・・

社外監査役　幸地均　6月9日
「皆さん、こんにちは。微力ではございますけれども、拓南製鐵および拓伸会の発展のために監査役の立場として頑張ってまいります。皆さまのご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します」・・・

社外監査役　與那原信祐　6月9日
「長年、県産業界をリードされてきた当社の業務運営に、私なりの参画ができることに喜びと期待を抱いております。微力ではございますけれども、精いっぱい頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します」・・・

〈拓南製作所〉

取締役副社長　奥平勉　5月18日
「どのような環境変化でも十分に耐えうる会社にするために、拓伸会と情報を共有し、連携してさらなる成長を目指し、頑張ります」・・・

常務取締役　冨里真史　5月18日
「このような大役を仰せつかり、責任の重さに身の引き締まる思いです。グループ間の連携を深め、より一層会社を盛り上げられるよう努力を重ねてまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします」・・・

顧問　小湾正博　5月8日
「入社して46年間お世話になりました。これからは非常勤として陰ながら見守りつつ、協力できる案件には積極的に参加していきたいと思います」・・・

〈西原グリーンセンター〉

専務取締役　外間一成　5月17日
「新しい会社への就任で、重責で身の引き締まる思いです。共に就任した翁長常務と協力して頑張ります」・・・

常務取締役　翁長辰伍　5月17日
「現場の皆さんと力を合わせて頑張ります」・・・

監査役　比嘉利夫　5月17日
「今までは取締役として業務執行をする立場でしたが、今後は業務を監査する役目ではありますが、西原GCの業績発展のために役割を果たしていきたいと思います」

〈拓伸商事（福岡）〉

代表取締役取締役社長　大城秀政　5月11日

＊5頁に新任あいさつ掲載

専務取締役　安東秀徳　4月1日
「与えられた職責に恥じぬよう尽力します」・・・

〈薩南物産〉

常務取締役　江上晃一郎　5月11日
「重責のプレッシャーを感じながら、環境変化する時代に調和が取れるよう職場づくりに精進してまいります」・・・

顧問　橋西五十四　5月11日
「拓伸会70周年とその半分35周年になる薩南物産節目の年に顧問へ就任し、光栄です。古波津清昇創業者の思いと夢を少しでも引き継いでいけるように精進してまいりたいと思います」・・・

編集後記

創業70周年記念式典で、古波津会長、小湾・仲座両副会長、親富祖氏、黒島氏、山内氏のあいさつをじっくり拝聴し、おっしゃっていることは、まさに論語の『温故知新』だな、と思いました。つまり、変わらぬ理念が拓伸会を変えていく。さぁ、共に100周年に向けて。（鈴木）